

第2回「道史編さんに関する有識者懇談会」議事概要

日時：平成29年8月2日（水）10:00～12:00

場所：ホテルポールスター札幌 4階「ラベンダー」

【挨拶】

（辻副知事）

議事1 道史の構成(検討案)について

事務局より説明（略）

【主な意見】

（桑原委員）

- 仮称「北海道現代史」の編さん検討案に基本的に賛成。
- 北海道はこれまでに、開道50年、北海道百年に当たって記念事業として北海道史の編さんを実施してきた。今回も北海道150年記念事業の一環として「北海道現代史」の編さんに取り組むことは、こうした歴史の編さんという伝統の継承に留まらず、過去の北海道の歴史に対する見直しと反省という点からも極めて意味がある。
- 通史編と資料編の配分はもう少し検討した方が良い。例えば、充実した資料編があれば、場合によっては通史編は1冊でもかまわないのではないかと。今後、編さん事業が具体化する直前の段階で再度考えれば良い。
- 過去の北海道史編さんでは、資料編をそれほど重視してこなかったが、今回の道史編さんはその反省を踏まえて、資料編の充実を図るべき。
- これまで北海道が編さんした3種類の北海道史には、1冊目に必ず「概説」があるが、この位置づけがあまり明確でなく通史の単なる要約に留まっているように見える。この点を明確にして、内容的に意味のある「概説」の編さんに取り組んでもらいたい。
- 道内の考古・歴史系7団体からの北海道史の全面的見直しの要望を、どのようにしたら編さん事業の中に生かせるか改めて検討してほしい。例えば、「概説」の充実という方法が考えられる。

（坂下委員）

- 対象時期について、戦前から、場合によっては戦中、戦後まで遡るということで、前回の私の意見を反映していただいて良かった。
- 戦後の紙資料は保存状態が悪いので、きちんと形にして残す、本として残すことは大事。
- 「現代史」、「概説」、「年表」はそれぞれ性格が違うため、同じ人間が作るのは結構辛いのではないかと。同じ人間が作るのであれば、時間的な割り振りなどの配慮が必要。

（横井委員）

- 構成検討案には賛成。
- 通史編の巻数については、その内容の密度にもよるが、現代になるほど事象が多様化しているので、ある程度の分量が必要と思う。資料編については、現代は非常に多くの資料があるので精選が必要であり、行政資料をどこまで載せるのかなど色々検討しなければならず、それによって資料編の作り方は変わってくる。
- 道教委の「北海道教育史」の資料編と、載せる資料についての調整が必要。
- 資料収集を積極的にやっていくことは非常に重要。収集した全ての資料を載せることはで

きない。道史を書くだけでなく、文書館での資料保存を確実にやってほしい。

(山崎委員)

- この検討案のとおり進めることでよろしいかと思う。
- 1945年～2000年を対象とする場合、「新北海道史」の1945年～1970年をどのように扱うか、ある種の原則を検討する必要がある。「新北海道史」の戦後の部分はないものとして書くのか、あるいは補足する形で書くのかなど、色々なアプローチの方法があると思う。
- できれば、「概説 北海道史」の英語版を作成して発信してほしい。他県と違った、北海道史を生かしていく重要な意義深い発信になると思う。

(小内委員)

- この検討案で基本的に賛成。
- 通史編と資料編のバランスという点では、資料に直接馴染みがあるという人はそう多くはないので、きちんとした通史編もあった方が良い。
- 「概説 北海道史」については、通史の単なる要約ではなく、学術的な最新の成果も入れて、一般道民も親しめるようなものとのことだが、非常に難しい仕事になるのではないかと。

(小川委員)

- 資料収集を行って作る「現代史」と、先史時代からの北海道史全体について、新しい研究成果を踏まえて捉え直す「概説」。概説というと薄味のイメージだが、今回はむしろ多くの道民に新しい北海道史を見てもらうものと受け止めた。
- 例えばアイヌの歴史については「新北海道史」の戦後の部分ではほとんど書かれていないので、北海道という社会を作っている構成員として描き直す、道史としては最初の機会になる。1945年～1970年の「新北海道史」の記述をどう扱うかは、分野やテーマによって濃淡や比重のかけ方が変わってくる。

(北野委員)

- 基本的に今回の検討案については賛成。とりわけ資料編の充実を図っていくという点を評価したい。
- 「概説 北海道史」を作るのはかなり難しいと思うが、アイヌの問題一つ取っても、例えば新聞連載の中に「新北海道史」以上の内容の話が出てきており、避けられない必要なもの。
- 「概説 北海道史」では、1997年の拓銀破綻とその後の北海道経済への影響や、堀道政の評価なども取り上げて欲しいので、単純に2000年で区切らず、糊しろのある構成をお願いしたい。

(富田委員)

- 今回の検討案でいいのではないかと。
- 資料編を厚くすることに賛成。資料編を作るに当たっては、一般道民が興味を持つということに力点を置いてほしい。

(柴田委員)

- 今回の検討案について異議はない。
- 自分達の北海道の歴史を振り返る意味で、概説がどのような形になるのか、一道民としては楽しみだが、作業としては非常に難しいと感じる。
- 資料編の関係で、我々は農業団体なので、農業団体の資料を提供する役割があるかと考え

ている。ホクレンでは、現在 100 年史の編さんを行っており、この資料編の充実に向けて貢献できる部分があるかもしれない。

(辻座長)

- 概ね原案に賛同していただける意見が多かったと思うが、様々なご指摘もあったので、次回の検討課題として、また、編集の際に検討していただく部分もあるかと思う。

議事 2 道史編さん大綱(素案)について

事務局より説明(略)

【意見等】

なし

議事 3 その他(全体を通して)

【主な意見】

(横井委員)

- どのタイミングで言うべきか分からないが、実働部隊として重要な専門委員と調査執筆委員の人数確保、充実を図ってほしい。

(辻座長)

- 次回は、今回のご意見を基に「道史編さん大綱」の原案を示して、また内容を深めていきたい。次回の懇談会は11月頃の開催を予定。